

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和3年度】

4年 4月 19日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 140-0001

所在地 東京都品川区北品川4-7-35 御殿山トラストタワー9階

評価機関名 株式会社 医療福祉経営研究所

認証評価機関番号

機構 07 - 180

電話番号 03-5422-7938

代表者氏名 薄井 照人



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	新井 結花	福祉	H0802032
	②	森田 敏史	経営	H0306101
	③	水田 智博	福祉	H1001029
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	宿泊型自立訓練			
評価対象事業所名称	葛飾通勤寮		指定番号	1312202086
事業所連絡先	〒	124-0004		
	所在地	東京都葛飾区東堀切1-16-22		
	TEL	03-3603-0594		
事業所代表者氏名	坂本 光敏			
契約日	2021年 9月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2021年 12月 9日			
利用者調査結果報告日	2022年 2月 15日			
自己評価の調査票配付日	2021年 9月 3日			
自己評価結果報告日	2022年 2月 15日			
訪問調査日	2022年 2月 23日			
評価合議日	2022年 2月 23日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	<ul style="list-style-type: none"> ・標準手法である利用者ご本人に対する聞き取り調査を実施しました。 ・当日不在の方は調査表による無記名式のアンケートを事業所で配布し、実施しました。記入済みの調査票は専用封筒にて、直接評価機関に返送していただきました。 ・職員の自己評価では、オリジナルの回答シートを用意し、階層別の評点分布だけでなく、より問題点を特定しやすいように集計結果をまとめて、事業所に報告しました。 			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

4年 4月 19日

事業者代表者氏名

坂本光敏



1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)企業就労と社会生活能力向上のための支援 2)豊かな日常生活が送れるような余暇活動の提供(多様な行事の実施) 3)地域社会への貢献(防災協定・施設設備の提供・地域行事への参加・地域交流祭りの開催) 4)法人内他事業所と連携した日中活動の提供・企業就労生活支援 5)人材の育成</p>
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>専門性・柔軟性・受容・傾聴感覚・マナー社会貢献意識・明るさ</p>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>気配り・持続性・洞察力・企画力</p>

調査対象	対象は原則として利用者全員。回答者の内訳は男性61%・女性35%、無記入4%。20歳未満13%、20歳代83%、無記入4%。在所年数6か月未満4%、6か月～1年未満4%、1年～3年未満48%、無記入44%。
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> 一人30分程度、施設内で聞き取り調査を実施。事前に施設側に対象者の特性を所定のシートにまとめていただきました。 当日不在の方は調査表による無記名式のアンケートを事業所で配布し実施。記入済みの調査票は専用封筒にて、直接評価機関に返送していただきました。

利用者総数 23

	アンケート	聞き取り	計
共通評価項目による調査対象者数	23		23
共通評価項目による調査の有効回答者数	23		23
利用者総数に対する回答者割合(%)	100.0	0.0	100.0

利用者調査全体のコメント

- 標準手法である利用者ご本人に対する聞き取り調査を実施し、さらに滞在調査を実施しました。
- 当日不在の方は調査表による無記名式のアンケートを事業所で配布し実施。記入済みの調査票は専用封筒にて、直接評価機関に返送していただきました。
- 施設に対する総合的な評価は「大変満足」「満足」と回答した方は52%となっています。
- 個々の設問に対する回答状況をみると、17設問中5設問について70%以上の方が「はい」と回答しており、個々の取り組みについて満足度が示されました。
- 自由意見では「食事は毎日バランス良く出ていてすごく美味しいです」「最後まで頑張りたいと思います」など意見がありました。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 利用者は困ったときに支援を受けているか	16	4	3	0
「はい」と回答された方は70%と満足度が示されており、「薬の件や歯医者の件について助けてもらっている」といったコメントが寄せられています。「どちらともいえない」と回答された方は17%、「いいえ」と回答された方は13%です。				
2. 事業所の設備は安心して使えるか	14	7	1	1
「はい」と回答された方は61%、「どちらともいえない」と回答された方は30%、「いいえ」と回答された方は4%、「無回答・非該当」の方は4%です。				

3. 利用者同士の交流など、仲間との関わりは楽しいか	14	5	3	1
「はい」と回答された方は61%となり、「仲間がいてたまに助けてくれる」といったコメントが寄せられています。「どちらともいえない」と回答された方は22%、「いいえ」と回答された方は13%、「無回答・非該当」の方は4%です。				
7. 【宿泊型自立訓練】 事業所での活動が生活する力の向上に役立っているか	17	4	1	1
「はい」と回答された方は74%と満足度が示されており、「主に金銭で各必要な必需品や趣味に使うお金のバランス、優先順位を理解できた」といったコメントが寄せられています。「どちらともいえない」と回答された方は17%、「いいえ」と回答された方は4%、「無回答・非該当」の方は5%です。				
8. 【宿泊型自立訓練】 自立支援は利用者の個別の要望や状況に応じて行われているか	18	3	1	1
「はい」と回答された方は78%と満足度が示されています。「どちらともいえない」と回答された方は13%、「いいえ」と回答された方は4%、「無回答・非該当」の方は5%です。				
9. 【宿泊型自立訓練】 職員が利用者の家族等に連絡をする場合、方法や内容等についてあらかじめ利用者の希望が聞かれているか	12	7	3	1
「はい」と回答された方は52%、「どちらともいえない」と回答された方は30%、「いいえ」と回答された方は13%、「無回答・非該当」の方は5%です。				
10. 【宿泊型自立訓練】 休日など余暇の支援は、利用者の自立後の生活に役立つものになっているか	17	4	1	1
「はい」と回答された方は74%と満足度が示されています。「どちらともいえない」と回答された方は17%、「いいえ」と回答された方は4%、「無回答・非該当」の方は5%です。				
18. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	14	4	5	0
「はい」と回答された方は61%、「どちらともいえない」と回答された方は17%、「いいえ」と回答された方は22%です。				
19. 職員の接遇・態度は適切か	15	5	2	1
「はい」と回答された方は65%、「どちらともいえない」と回答された方は22%、「いいえ」と回答された方は9%、「無回答・非該当」の方は4%です。				

20. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	14	5	2	2
「はい」と回答された方は61%、「どちらともいえない」と回答された方は22%、「いいえ」と回答された方は9%、「無回答・非該当」の方は8%です。				
21. 利用者同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	13	6	3	1
「はい」と回答された方は57%、「どちらともいえない」と回答された方は26%、「いいえ」と回答された方は13%、「無回答・非該当」の方は4%です。				
22. 利用者の気持ちを尊重した対応がされているか	12	9	2	0
「はい」と回答された方は52%、「どちらともいえない」と回答された方は39%、「いいえ」と回答された方は9%です。				
23. 利用者のプライバシーは守られているか	15	6	1	1
「はい」と回答された方は65%となり、「前は少し嫌だったけど、今は守ってくれている」といったコメントが寄せられています。「どちらともいえない」と回答された方は26%、「いいえ」と回答された方は4%、「無回答・非該当」の方は5%です。				
24. 個別の計画作成時に、利用者の状況や要望を聞かれているか	17	5	1	0
「はい」と回答された方は74%と満足度が示されています。「どちらともいえない」と回答された方は22%、「いいえ」と回答された方は4%です。				
25. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	15	5	2	1
「はい」と回答された方は65%、「どちらともいえない」と回答された方は22%、「いいえ」と回答された方は9%、「無回答・非該当」の方は4%です。				
26. 利用者の不満や要望は対応されているか	14	6	3	0
「はい」と回答された方は61%、「どちらともいえない」と回答された方は26%、「いいえ」と回答された方は13%です。				

27. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	10	10	2	1
<p>「はい」と回答された方は44%、「どちらともいえない」と回答された方は44%、「いいえ」と回答された方は9%、「無回答・非該当」の方は3%です。</p>				

I 組織マネジメント項目 (カテゴリ1～5, 7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1 (1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	キャッチコピー的な表現を用いて、わかりやすく伝えられるようにしています 次世代の寮長交代を見据え、現場のマネジメントを実質的に行う寮長代行を据え、寮長に相談しながら支援にあたる体制になりました。支援員心得を作成し、支援について共通認識を図れるよう職員にも配布しました。「新人職員でもわかりやすく仕事ができるツールがある」「目ばかり、気ばかり、心配りができる～相手への思いやりを大切に～」 「つなげていこう！チームの輪(和)」 「通動寮から社会(世界)へ～もっと輝ける自分に～」 という項目で明文化し、あえてキャッチコピー的な表現を用いて、職員にわかりやすく伝えられるようにしています。 4つの自立や講座を通して、自立した生活に向けた考え方を利用者伝えていきます 年度初めの利用者オリエンテーションはライブ配信形式をとり、通動寮で行っている4つの自立(経済的自立、生活の自立、社会的自立、経済的自立)について話をしたり、各自が目標設定し、自立した生活に向けた考え方を伝えられるようにしています。また、毎月講座を行い、10月「社会人としての意識(通動寮で学ぶことは「大人の自立」)」、11月「危険から身を守ろう」、12月「冬の健康管理」といったテーマで行っています。また、男子ミーティングや女子茶話会では性教育やグループで話し合う機会を持ち、講座の内容を補完して伝えています。 各会議体の機能に応じて、意思決定や情報共有、支援員会議では勉強会を実施しています 月2回の指導会では常勤職員が参加し、法人の動向や施設内の情報共有、意思決定を行う会議体となっています。また、職員間のチームワークや支援スキルの向上を図るため、支援員会議にて勉強会を実施しています。また、就労継続支援B型事業所と近隣のグループホームとの3事業の管理者による会議を持ち、それぞれの動きを確認できるようにしています。経験年数2、3年の職員が増えていることもあり、職員自己評価からも経営層の思いや意図が明確に伝えられるような働きかけや会議進行のさらなる必要性を経営層は感じています。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>関係機関の会議への参加や3事業所が連携して情報収集や利用者の受け皿を広げています 例年であれば学校運営協議会や体験入寮見学会を行い、ニーズを把握していましたが、今年度はコロナ禍のため十分に実施できませんでした。関係機関の会議に寮長が役員として参画し、防災対策・備蓄についてやコロナ禍における通所事業所の厳しい経営状況について情報収集しています。併設している就労継続支援B型事業所やグループホームとの3事業の管理者会議を定期的に行うことで各事業を取り巻く情報収集や利用者の受け皿を広げたり、事業継続計画についても3事業が互いにバックアップできる体制が取れる内容の計画としています。</p> <p>中長期計画の本論と連動した通勤寮に関する項目が重点目標に位置付けられています 法人第8プロジェクトとして3か年の中長期計画を作成しており、本論として、①着実な世代交代、②グループホームの老朽化及び利用者の高齢化のハード対策、③通所事業所の再編、④法人防災拠点整備、⑤人材育成成長委員会による研修制度の進化、⑥人事考課の着実な実行といった項目を重要課題として位置づけて計画を進めています。単年度事業計画書は前年度の実績報告の総括を踏まえ寮長代行が作成しています。単年度事業計画書には「今年度の重点目標」が位置付けられており、中長期計画の本論と連動した通勤寮に関連のある項目が設定されています。</p> <p>進捗管理を強化するため事業計画書の目標値やありたい姿を記載することが期待されます 単年度事業計画書の進捗管理は指導会議で行っています。今年度の重点目標の他に支援内容や行事等についての進捗状況も共有され、宿泊行事の代わりに公共交通機関を利用してお台場や鎌倉などに出かける機会を持つことが出来ました。また、職種ごとの職員の業務分担が明確になっており、下線部分は新規・変更、囲みは法人委員として役割が明文化されています。しかしながら、重点目標や支援方針、業務分担に関わる目標値やありたい姿についての記載がありません。今後、職員の目標達成を意識づけたり、進捗管理を強化するためにも検討が期待されます。</p>		

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-3の講評		
<p>利用者自治会の代わりに目安箱を設置し、意見や要望をくみ取れるようにしました</p> <p>利用者向けの掲示板に苦情解決の仕組みや連絡先を明示すると共に、ガイドライン、重要事項説明書に利用相談・苦情窓口について担当を生活支援員とし、連絡先を記載されています。利用者自治会はコロナ禍のため中止をしており、役員会のみ話し合いの機会を設けています。その代わりに目安箱を設置し、利用者からの意見や要望をくみ取れるようにしています。コロナ以前は第三者委員が毎月来寮し、利用者と面談して記録に残していますが、今年度は実施していません。利用者からの意見や要望がある場合は指導会議にて検討し、対応を検討しています。</p> <p>虐待防止委員会を中心にセルフチェックシートを用いた振り返りや研修を行っています</p> <p>毎年、セルフチェックシートを用いた振り返りを行っており、令和4年度からの運営基準の改正に伴う虐待防止に係る取り組みについて、虐待防止委員会で具体的な取り組みを行っていけるよう検討を進めています。今年度は支援員会議にて虐待防止研修を行い、共通認識を図りました。単年度事業計画書にも、「差別解消法施行と合理的配慮」「利用者の権利擁護と虐待防止」に関わる項目が位置付けられており、特に、支援困難者のケース討議を充実させ、共通理解を深め、支援上で担当職員が孤立しないよう、チーム支援に配慮することが記されています。</p> <p>プログラム体験を通して、利用者が寮生活の中で何を学ぶかを伝えています</p> <p>コロナ禍により、入寮前の家庭訪問や職場訪問が計画通りに実施できない状況があり、特別支援学校からの面接や見学が出来ず、待機者確保が困難な状況になっています。一方で、児童養護施設からの受け入れは影響がなく、体験入寮を行っています。寮のプログラムに関する勉強会として、在寮生が講師となり、特別支援学校の生徒に通寮での支援内容について伝えるプログラム体験の機会を設けており、利用者にとっても、寮生活の中で何を学ぶかを伝える機会となっています。</p>		
カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>3事業が連携してバックアップ体制が取れるよう事業継続計画を作成しています</p> <p>就労継続支援B型事業所と近隣のグループホームと合同の防災委員会を立ち上げ、共同して事業継続計画を作成しました。事業継続計画の理念として、命・安全あつての尊重と支援、葛飾通動寮・奏かつしか・craftの連携、地域社会との共生・共助が掲げられ重要業務や備蓄品についてまとめられています。感染症発生は居室をレッドゾーン、フロアをグリーンゾーンに分けて対応できるようにしています。3事業のヘルプ支援マニュアルでは、事業所で感染症が発生した際の職員の利用者支援や施設整備などのバックアップ体制について明文化されています。</p> <p>防火・防災、感染症などは警備会社や関係機関との連携やマニュアルを作成しています</p> <p>災害時の避難計画を定め、防火・防災については一部警備会社に委託しています。感染症対策については保健所や行政と連携し対策を講じており、感染症支援対策マニュアルを作成し、陽性・陰性時の対応についてフローチャート化しています。災害発生時を想定し、携帯アプリのグループウェアを活用した安否確認の訓練を実施するなど、災害時に停電時や電話が掛けられない状況が発生しても対応できる準備を行っています。事業継続計画は火災、地震、洪水などの水害を想定して作成されており、近隣のグループホームの利用者を受け入れたケースがありました。</p> <p>個人情報保護規程や情報公開開示規定などに基づき個人情報は適切に管理されています</p> <p>個人情報保護規程や情報公開開示規定などで保護する情報、開示する情報を整理し、利用者には個人情報提供同意書や写真の掲載についての同意書を取り交わしています。利用者に関する紙媒体の資料については、鍵付きロッカーで保管しています。パソコン内で管理しているデータについては、職層により管理しているファイルのアクセス制限を設け、機密情報の漏洩に取り組んでいます。寮長のパソコンは専用とし、職員各自にIDとパスワードが付され管理できるようにしています。</p>		
カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当

評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賞金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-5の講評		
職務資格等級要綱を用いて職責や役割を全うできるよう働きかけています 人事考課要綱に基づいた人事考課表や個人面談を行い、組織的な人材育成に取り組んでいます。職能資格等級要綱(成長ステージ表)に沿って、1等級から4等級の一般職層、5・6等級の中間指導職層、7等級以上の管理専門職層が位置付けられており、それぞれに等級概念、職能資格定義、対応職位が明文化されています。人事考課や個人面談を行う際は職員自身がこの等級を意識して、組織が期待する職員像に照らし合わせて職責や役割を全うできるよう働きかけています。		
職員個人別育成計画実施記録を用いた目標管理や仕事への向き合い方を振り返ります 職員個人別育成計画実施記録を用いて、職員一人ひとりの目標管理の取り組みを通じた人材育成に取り組んでいます。職員自身の将来の夢と経営層からの期待を伝え、今年度の目標を設定します。中間と年度末に自己の振り返りと管理者からフィードバックされ、目標の達成状況を確認しています。この育成計画には「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「想像力」「発信力」といった項目で仕事への向き合い方や経営層から求める職員に対する期待値を満たしているかどうか3段階で自己評価と上長評価が出来るようにしています。		
OJT業務日誌を用いて職員と担当が二人三脚で独り立ちに向けて取り組んでいます 新人職員の育成では年間計画に沿って研修を実施したり、OJT業務日誌を用いて、新人職員とリーダー層の育成担当が二人三脚で取り組めるようにしています。その日の業務内容を時系列で記載し、「遅刻をしなかった」「元気の挨拶が出来た」など組織人として必要な項目について自己点検を行います。業務中感じた疑問点はその日の内に確認、解決できるよう記載する欄を設けたり、今日の頑張った自分をアピールする欄を設け、職員の自覚や自信を養えるよう働きかけています。寮長代行と担当者会議で育成の進捗状況を確認しながら進めています。		

カテゴリ7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>家庭から入寮する利用者が多くなり、まずは親離れ、子離れからの支援が必要だったため、家族には本人の課題や通勤寮支援の協力を仰ぐことが第一歩となりました。児童養護施設出身者は支援者との関係づくりから始まり、安心した生活の提供と自己肯定感を高め、精神安定を図るための支援が重要になっています。利用者の生活・社会・就労・精神的な自立を本人と話し合いながら支援を実施しています。本人との関わりのある家庭や児童養護施設、実施機関、その他関係機関と連携を図りながら個人にあった支援を実施しています。カウンセリングが必要な利用者に関しては、導入しているカウンセラーと連携しながら、支援方法を検討しています。</p> <p>親離れ、子離れに関する支援は文章化して伝えたり、個別支援計画は利用者や相談しながら作成するなど、経験を積み確立してきました。各関係機関との連携も、役割分担を明確にすることでヌケのないよう努められました。精神的に幼い利用者が多いため、自律とは何かを伝え、理解してもらうまでに時間がかかりました。会議や日時ミーティング、夏休みのミーティングで役割と実施すべき内容を確認し、職員間でも連携を図りました。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>令和3年度事業計画書の重点目標として、「利用者が、自律に向けて前向きに取り組んでいけるよう、保護者にも協力してもらえるように、親離れ子離れ支援にも取り組む」ことが位置付けられており、家庭支援で確立してきたものを確認し合い、具体化できつつあります。利用者の多くが精神的に幼く、不安定な利用者をどのように自立に向けて地域移行できるか、先を見据えた支援方法の検討の必要性が高くなってきています。各関係機関と連携を図りながら、進んで行くことを意識することが出来ました。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

防災対策として、通勤寮、奏かつしか、craftと防災対策委員を設置し、事業継続計画の作成に努めてきました。コロナ禍において、感染者は発生していませんでしたが、感染対策を考えると共に、罹患者が出た場合の対策を事業継続計画に落とし込む必要があったため、事業所全体としての感染症対策を含めた事業継続計画の作成に取り組みました。月1回の防災委員会を実施し、コロナなど感染症対策を含めた事業継続計画を作成し、防災対策を職員全員に周知することが出来ました。事業継続計画を作成しただけにとどまらず、訓練やグループウェアを用いた安否確認に取り組み、今後の情勢を確認しながら随時内容の変更・周知をしていく必要性を感じています。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

令和3年度事業計画の「その他の計画」内に、防災・安全体制について明文化さ、奏かつしかとcraftと連携した内容で、事業継続計画の作成やcraftとの合同での防災訓練を適宜実施していくことが位置付けられています。感染症の陽性者が発生した際のフローチャートかされた感染症支援マニュアルや3事業所が互いに連携しながらバックアップできる体制を明文化したヘルプ支援マニュアルを作成し、3事業所が一体的に感染症などのリスクマネジメントに対峙できるようにしています。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>パンフレットでは通勤寮の特徴などをわかりやすく記載しています</p> <p>事業所の情報は、ホームページやパンフレットで発信しています。パンフレットでは、通勤寮がどんな場所であるかや入寮までの流れ、費用、入寮の目的、1日の流れ、プログラムの内容、年間の行事予定、退寮後の生活についての項目に分かれており、利用希望者が読めて、伝わるよう全て振り仮名を入れ、わかりやすく情報発信を行っています。ホームページは法人全体のものとなり、事業所の情報やSNSのリンク先を入れて活動の写真を発信しています。様々な媒体を使いながら、わかりやすい情報発信に努めています。</p> <p>法人全体と事業所独自で発行した広報誌を地域の関係機関へ配布しています</p> <p>法人全体の広報誌「原町かわら版」と事業所独自で年4回発行している「葛飾通勤寮ニュースレター」は保護者や地域の関係機関に配布しています。法人全体の「原町かわら版」では、各事業所の現状や活動内容を記載しています。事業所の近隣に同法人が運営するグループホームなどがあるため、退寮後も法人内で連携することが可能であることが伝わると推察されます。事業所にて発行している「葛飾通勤寮ニュースレター」では、活動内容や職員紹介、その他お知らせなどを掲載しています。</p> <p>見学だけでなく、事業所内での生活を体験できる機会も設けています</p> <p>感染対策の観点から、見学は共有部分のみとし、居室への案内は行っていません。見学以外にも、実際に事業所での生活を体験してもらおう体験入寮や短期自立訓練も行っています。その場合、事前に今後の目標や職場・家庭での様子、体験期間中に配慮してほしいことなどを聞き取り、終了後には振り返りも行いながら、不安なく過ごせるよう配慮しています。以前は、特別支援学校の高校3年生に対し、社会資源である通勤寮の存在を知ってもらうために、2泊3日の体験会も行っていました。コロナ禍に入り中止しています。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、利用者の不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>契約書等には振り仮名を入れ、利用希望者にもわかりやすく伝わる工夫をしています</p> <p>入寮にあたり、基本ルールや重要事項については、重要事項説明書とパンフレットを用いて説明しています。説明後に質問を受けながら、必要に応じて事業所内の見学も行っています。契約書には別紙があり、居室形態や食事の時間、健康管理の内容などの「障害福祉サービス宿泊型自立訓練の内容」や、食費や光熱水費などの「利用料金」も記載しています。すべての資料に振り仮名を入れ、利用希望者にわかりやすく伝わる工夫をしています。また、用意する物の一覧表も配布し、利用者自身でチェックしながら入寮に向けた準備ができるよう配慮しています。</p> <p>入寮前の面接や職場訪問などを行い、現状の把握や利用者の意向を確認しています</p> <p>入寮前には面接や家庭訪問、職場訪問を行いながら、利用者の状況や今後の生活に関する課題、希望を把握しています。面接は、事前に記入してもらった「入寮面接シート」を基に、聞き取りを行います。シートでは、本人の生活・特徴、生活状況、服薬・医療機関、社会生活技能、コミュニケーション、就労・勤務時間、生活・病歴、通勤寮で頑張りたいこと、その他の9項目に分かれています。面接後には面談者の所見も記入し、職員間で共有しています。利用希望者の状況は様々であるため、状況に応じて必要な関連機関と連携して対応しています。</p> <p>オリエンテーションは感染対策のため動画配信で行い、4つの自立の説明を行いました</p> <p>5月にオリエンテーションを行い、事業所の概要や大切にしている4つの自立の内容、今後の生活に関する説明を行っています。以前は全員で集まり1日～2日かけて実施しておりましたが、感染予防のため今年度は動画配信にて開催し、4つの自立の説明を中心に短時間で行いました。その他の内容は後日教養プログラムの中で実施しています。また、入寮初日の夕食時には近くにいる人達へ紹介を行ったり、月1回全員で行っている食事会にて紹介の時間を設けるなど、新しく入寮の方が事業所に馴染めるような配慮も行っています。</p>		

サブカテゴリ-3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 10/10
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直している	○非該当
●あり ○なし	3. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当
評価項目3 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
<p>利用者自身が課題と向き合い「4つの柱」を基に個別支援計画を作成しています</p> <p>利用者の情報は個人ファイルにまとめてあり、入寮前の体験入寮や職員との面談、特別支援学校、相談支援事業所など関係機関からの情報やアセスメントをもとに、個別支援計画を作成しています。毎年5月に実施するオリエンテーションにて当寮での生活について確認し、個別チェック表にて自分を振り返り課題と向き合います。これらを踏まえて個別支援計画では、支援の柱となる「精神的自立」「生活的自立」「社会的自立」「経済的自立」の「4つの柱」を意識した内容での立案となるよう、利用者とともに作成しています。</p> <p>個別支援計画は職員と利用者と一緒に確認し、目標は優先順位を定めて取り組んでいます</p> <p>個別支援計画に掲げた目標は3ヶ月ごとに担当職員と利用者と一緒に取り組み状況を確認しています。「4つの柱」は生活・仕事・対人・自己理解という項目に置き換え、現状と希望、希望に対する目標を支援方法を記してあり、目標は優先順位を定めて取り組むこととしています。振り返り時は前回の評価を基に現状を確認し、また目標設定をする、優先順位も見直し、その期に取り組むことを記載するという流れで利用者のスモールステップを支援しています。常に自分の「今」を確認して向き合いながらそれぞれに「自立」に向けて取り組んでいます。</p> <p>個別ケース記録は、個人の出来事、その時の対応、本人の様子が細かく記載されています</p> <p>利用者の個別ケース記録には、個人の出来事、その時の対応、本人の様子が細かく記載されています。職員間での確認は、勤務交代の申し込みの際や、日次ミーティングという日勤・夜勤の職員の間、併設するグループホーム職員も参加する機会もあり、利用者の様子に関係者で情報共有がなされています。その他、月2回の指導会にて個別の支援状況や支援の方向性を確認し合い、職員全体で利用者の現状や支援状況を共有した中で日々の支援が行われています。</p>		

サブカテゴリ5		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 利用者のプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者に関する情報(事項)を外部和りとりする必要がある場合には、利用者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 個人の所有物や個人宛文書の取り扱い等、日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮した支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている)		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ5の講評			
<p>男女に分かれて行うグループワークなどを通して、性教育を実施しています</p> <p>個人情報に関しては、契約時に「個人情報提供同意書」を用いて、利用目的なども示しながら承諾を得ています。法人で作成しているパンフレットや広報誌などに利用者の写真を使用する場合は、利用者本人へ同意を得ています。また、若い男女が生活する空間のため、性教育にも力を入れて取り組んでおり、教養プログラム内にて月1回男性は男子ミーティング、女性は女子茶話会として男女別に学習会を開いています。男女の距離感やアサーション(相手の気持ちを理解しながら自身の気持ちも伝える)についてのグループワークなどを行っています。</p> <p>利用者が納得して行動できるよう、時間をかけながら利用者本人の意思を確認しています</p> <p>事業所では、利用者本人の意思を尊重しながら、時間をかけて丁寧に説明し、利用者自身が納得して生活できる支援を心がけてます。自立に向けた訓練施設であるからこそ、本人の意思を繰り返し確認し、自身で決めたことには責任を持つ意識を持たせています。利用者個々で抱える課題が多様であるため、学習会を兼ねた支援員会議を定期的に開催し、支援方法について随時共有しながら対応しています。今年度の支援員会議ではリーダー層が講師となり虐待防止の勉強会を行いました。来年度は具体的な取り組みも検討したいと経営層は考えています。</p>			

サブカテゴリ6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直し取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ6の講評			
<p>年度末には全職員で役割分担して、各業務の振り返りを行っています</p> <p>業務に関する関係規定はファイルにまとめ、誰でも確認ができるようにしています。運営規定や契約書、サービスガイドラインなどの利用者に関する項目と、職員行動規範や支援員の心得などの事業運営に関する項目と分けてファイリングしています。また、年度末には総括として個別支援や年間行事、給食、職場定着支援などの項目に対し、職員それぞれが1年間の振り返りを記載し、次年度にどう活かしていくかなどをまとめています。新人職員も含めて役割分担しており、全職員が業務に対して見直しを行う機会を設けています。</p> <p>支援における基本姿勢は、メッセージ性を入れて職員へ伝わりやすい内容にしています</p> <p>事業所では、支援員の心得を作成し、職員へ周知しています。支援はケースワークが基本となるため、すべての支援方法をマニュアル化することは難しいですが、支援における基本姿勢がわかりやすく示されているため、新人職員が入職した際に事業所での支援方針を説明しやすい工夫と推察されます。内容は「利用者の見本となるような振る舞いをしよう」「ケースカンファレンスは井戸端会議!「気になることは積極的に発信しよう」など、メッセージ性を入れて、職員に伝わりやすい表現にように工夫しています。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	24/24
1	評価項目1 個別の支援計画等に基づいて、利用者の望む自立した生活を送れるよう支援を行っている	評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 個別の支援計画に基づいて支援を行っている	○非該当		
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりに合わせて、コミュニケーションのとり方を工夫している	○非該当		
●あり ○なし	3. 自立した生活を送るために、利用者一人ひとりが必要とする情報を、提供している	○非該当		
●あり ○なし	4. 周囲の人との関係づくりについての支援を行っている	○非該当		
評価項目1の講評				
<p>月2回開催している指導会にて職員間で支援状況を共有し、支援しています</p> <p>入寮から卒業までの期間は、利用者がこれからの生活のために就労しながら学んでいくことを利用者に伝えていきます。個別支援計画は、支援の柱である「4つの柱」は、生活・仕事・対人・自己理解の項目にて、利用者が自分の課題や目標と向き合い取り組むことができるよう、担当職員と一緒に進捗状況を確認しながら、3ヶ月ごとに振り返りを行っています。月2回開催している指導会にて職員間で支援状況を共有し、支援の方向性を確認しながら、個々の状態に合わせて支援を行っています。</p> <p>それぞれの「自立」を目指して、職員と利用者は確認しながら取り組んでいます</p> <p>概ね3年間での卒業を目指し、当寮でそれぞれの「自立」を目指して利用者が取り組む中で、職員も色々な支援の取り組みを共有しながら、利用者への対応の仕方や対応する職員を決めています。対応能力により、利用者への伝わり方や取り方も違って来るため、対応したことについてどういう反応があったかなどを確認して、コミュニケーションの取り方も工夫しています。毎日の生活の中で、職員と利用者と一緒に確認したり生活習慣として行うべくことの支援を積み重ねていくことで、卒業という一つの自立に向けて取り組んでいます。</p> <p>共同生活の中で利用者同士で行う自治会や班活動があります</p> <p>居室はすべて個室のため、プライベート空間が確保しつつ、共同生活の中で利用者同士がルールを守りながら生活をしていくよう、寮生活に関する話し合いの場となる自治会があります。自治会の役員は選挙にて選出され、役員がこの会をまとめていきます。また、利用者の相性なども考慮した中で3つの班に分けており、行事の取り組みや寮内の清掃当番の作成をするなど、小さな集団の中で話し合い決めていくということを繰り返す中で関係性を築けていけるよう支援しています。</p>				

2 評価項目2 利用者が主体性を持って、充実した時間を過ごせる場になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者一人ひとりの意向をもとに、その人らしさが発揮できる場を用意している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所内のきまりごとについては、利用者等の意向を反映させて作成・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 室内は、採光、換気、清潔性等に配慮して、過ごしやすい環境となるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 【食事の提供を行っている事業所のみ】 利用者の希望を反映し、食事時間が楽しいひとときになるよう工夫している	○非該当
評価項目2の講評		
<p>自治会役員を中心に話し合い、目安箱の設置をしました</p> <p>今年度もコロナ禍のため、利用者が一堂に会して自治会を開催することができていないため、自治会役員を中心に話し合い、目安箱の設置をしました。利用者個々の意見を吸い上げることを目的としているため、「個人の悪口は書かない」「共有部分の使い方・過ごし方についての意見を入れる箱です。」と他の利用者への意識づけも行って取り組みました。自分たちで決めたルールを守るということも、当寮で掲げている「生活」や「精神」の自立につながる取り組みと推察されます。</p> <p>各自割り当てられた共有部分の掃除場所は、朝食前に行います</p> <p>現在はコロナ禍のため、感染防止対策を講じていることから様々な制約はありますが、食堂はとても広く、リビングには大きなテレビが置かれ、クライミングやバスケットボールもできる設備があり、交流機会を持つ中で人との関係づくりができるよう環境を整えています。過ごしやすい環境という点では、各自割り当てられた共有部分の掃除場所は、起床後、朝食前に済ませることとしており、皆が気持ちよく過ごせるよう取り組んでいます。</p> <p>生活基盤を整える上でも大切な食事提供は利用者の意見を取り入れて提供しています</p> <p>食事は直営で提供しており、年1回の嗜好調査と毎月献立会議にて検討し、栄養バランスや季節感のある献立であるとともに、生活基盤を整える上でも大切な食事提供は利用者の意見を取り入れて提供しています。現在はコロナ禍のため、実施できていませんが、毎月1回、夕食会を行っており、その時は利用者の食べたいメニューを聞いて提供する希望献立にて、親睦を図りながら食事を楽しむ機会も設けています。今年度も夕食会は実施できていませんが、クリスマスの時はケーキを楽しむなどできる範囲で「食」を楽しむ機会を提供しています。</p>		
3 評価項目3 利用者が健康を維持できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の健康状態に注意するとともに、利用者の相談に応じている	○非該当
●あり ○なし	2. 健康状態についての情報を、必要に応じて家族や医療機関等から得ている	○非該当
●あり ○なし	3. 通院、服薬、バランスの良い食事の摂取等についての助言や支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 利用者の体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	5. 【利用者の薬を預ることのある事業所のみ】 服薬の誤りがないようチェック体制を整えている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>「健康診断ファイル」を利用者ごとに作成し、健康状態を把握できるようにしています</p> <p>健康診断結果などを綴じてある「健康診断ファイル」を利用者ごとに作成し、健康状態を把握できるようにしています。定期健康診断は年2回としていますが、内1回は就労先での健康診断結果を提出してもらうようにしています。健康診断については、嘱託医の内科医からアドバイスをいただき利用支援に反映しています。また、月1回、臨床心理士の来寮があり、職員から気になる利用者には面談を勧めて受けてもらうよう働きかけています。終了後は職員へのフィードバックもあり支援に関するアドバイスを職員も受けることができています。</p> <p>利用者の健康状態により、食事のアドバイスや通院同行など個別対応しています</p> <p>健康診断などの結果から、肥満傾向のある利用者については、食事は主食は自分で盛り付けるため、お茶碗に1膳のみとするなどは食事に関する指導をしています。食事提供がない時など、購入してきたものを職員が確認して食べる組みあわせについてアドバイスをすることもあります。通院時は寮内での様子を記載して主治医に渡し情報提供したり、必要に応じて同行も行います。食事をとる、服薬をきちんとするというところを行うことも生活リズムを整えることへ支援しています。</p> <p>服薬ボックスで職員が管理し、利用者の服薬支援を行っています</p> <p>服薬管理の支援が必要な利用者は、土日にお薬カレンダーに1週間分をセットしていましたが、金銭の日でお金の管理をしている火曜日にお薬のセットをするよう変更しました。服薬ボックスで職員が管理を行い、利用者の服薬時に職員が渡し服薬したらチェックをして、飲み忘れのないよう管理しています。利用者の「自立」を考えた時、健康管理や服薬管理についても利用者が意識して行うことができるよう、各種講座で伝える等の対応が必要と経営層は考えています。</p>		

4 評価項目4 利用者の意向を尊重しつつ、個別状況に応じて家族等と協力して利用者の支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 家族等との協力については、利用者本人の意向を尊重した対応をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 必要に応じて、利用者の日常の様子や施設の現況等を、家族等に知らせている	○非該当
●あり ○なし	3. 必要に応じて家族等から利用者・家族についての情報を得て、利用者への支援に活かしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>支援の方向性なども伝えて「親と子の「自立」をサポート」することに取り組んでいます</p> <p>入寮時に家族には入寮後すぐの土日の自宅への帰宅は控えていただきたいことを伝えています。利用者の「自立」にとって必要となる家族としての対応について、当寮の支援の方向性なども合わせて伝えて協力を仰いでいます。親離れ・子離れは難しく、理解をいただくためにどのように家族に伝えるかという点は経営層も課題と捉えており、必要に応じて個別支援計画を見て頂き、利用者の目標を知ってもらう他、文章を渡す場合もあります。家族の思いも受け止めつつ「親と子の「自立」をサポート」することに取り組んでいます。</p> <p>法人発行・当寮発行の広報誌にて家族に取り組み状況などを情報提供しています</p> <p>昨年・今年度と続くコロナ禍のため、法人全体の取り組みは「原町かわら版」にて、当寮の取り組みについては「葛飾通動寮 ニュースレター かつしか」を発行し、家族に配布して情報提供がなされています。これまで実施していた、保護者会や個別面談は中止とされていることから直接、家族との対話の機会を持つことはできていませんが、当寮からの依頼にて来料いただき個別対応する場合はあります。また、自宅への帰宅日についても新型コロナウイルス感染状況を踏まえ制限をするなど対策を講じています。</p>		
5 評価項目5 利用者が地域社会の一員として生活するための支援を行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者が地域の情報を得られるよう支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者が地域の資源を利用し、多様な社会参加ができるよう支援を行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>地域内の活動情報を提供しながら、可能な範囲でできることに参加しています</p> <p>「利用者が地域にとけこみ、自分らしい生活ができるように支援に携わっていくこと」を事業計画冒頭にも記載されており、利用者と地域との関係性構築を大切に捉え、積極的に地域交流の機会を設けてきましたが、その一つとなる「かつくら祭」や町会開催の子ども祭りへの出店などはコロナ禍のため中止となりました。その中で、地域の神社のお祭りや町会の防災訓練などの情報提供を行い、参加できる利用者が出向いていきました。感染防止対策を講じながら、できることを模索しながら取り組んでいます。</p> <p>今年度は班活動で公共交通機関を利用して日帰りでの外出行事を行うことができました</p> <p>多くの人が一堂に会える行事はできない状況であるため、利用者の成人式は寮全体でのお祝いの席を設けることは避け、当寮の厨房でお弁当を作り、家族と利用者が帝釈天に出かけていく形で実施しました。また、今年度は班活動で公共交通機関を利用して、4コースの中から外出先を選択し、日帰りでの外出行事を行うことができました。余暇活動の充実という点でも利用者にとって有意義な時間となったと推察されます。</p>		

9 評価項目9

【宿泊型自立訓練】利用者が自立した生活を地域で送ることができるよう、居室その他の設備を利用させるとともに、日常生活能力の向上に向けた支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス期間内に、目標とする力を身につけるなど、サービス終了後の生活環境を想定した支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 基本的な生活習慣及び生活知識・技術を身につけられるよう支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 収入の範囲内で生活できる経済観念が身につくよう、日常生活を通じて、金銭の管理や使い方について、支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 休日の過ごし方や余暇の楽しみ方については、利用者の意向を反映し、情報提供や必要な支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 日中活動先(就労先、日中サービス提供事業者等)と連携し、利用者一人ひとりに応じた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	6. 地域で安定して生活することができるよう、サービス終了後も相談等の支援や関係機関との調整を行っている	○非該当

評価項目9の講評

様々な勉強をする機会があり個別支援計画で目標を定め、「自立」に向けて取り組みます

起床時間、食事時間、入浴時間、消灯時間、門限など、時間を意識しながら生活していくことは、仕事をしていく上でも重要なため、当寮ではスケジュールを決めて、利用者は生活リズム表を作成して、生活習慣として身につけていくことで「生活の自立」を目指しています。訓練施設という位置づけでの当寮での生活は、身辺の日は職員と一緒に居室の掃除を、教養プログラムで社会生活に必要な知識を学び、性教育は男女別で行い、金銭の日でお金に関することなど、様々な勉強をする機会があり、個別支援計画で目標を定め、「自立」に向けて取り組みます。

給料振り分け表や金銭ノートでお金の流れを可視化し、金銭管理に取り組んでいます

自分のお給料で生活していくことに取り組むため、「給料振り分け表」を毎月作成し、職員と一緒に確認しています。月の収入額は給料と障害者年金、寮食費や水光熱費などの必要経費の他は、「自己管理金」として、日用品・小遣い・携帯代などを振り分けて、給料から振り分けた金額でいくらが貯金できるのかを可視化しています。その他、毎日の金銭ノートを作成し、毎週火曜日の金銭の日に職員と確認して使い方や管理について学んでいきます。金銭の自立に向けて、家族にもお小遣いなどを渡すことはしないよう協力を依頼しています。

職場には訓練施設としての取り組みを説明し、協力いただけるよう伝えていきます

入寮前に職場訪問を行い、当寮で生活していく中で、行事参加などにより休暇を取ることがあるなど、訓練施設としての取り組みを説明し協力いただけるよう取り組んでいます。職場訪問後、担当職員と一緒に職場での状況について利用者と振り返りを行い、個別支援計画の目標としていくなど、意識して取り組めるよう働きかけていきます。卒業後はOB会も発足されており、OBの中で役員を決めて交流する機会があります。余暇活動にてOBとの交流も行われており、卒業後の地域生活もOBとのつながりからも感じ取ることができると推察されます。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	3事業が連携してバックアップ体制が取れるよう事業継続計画を作成しています	
内容①	就労継続支援B型事業所と近隣のグループホームと合同の防災委員会を立ち上げ、共同して事業継続計画を作成しました。事業継続計画の理念として、命・安全あつての尊重と支援、葛飾通勤寮・奏かつしか・craftの連携、地域社会との共生・共助が掲げられ重要業務や備蓄品についてまとめられています。感染症発生は居室をレッドゾーン、フロアをグリーンゾーンに分けて対応できるようにしています。3事業のヘルプ支援マニュアルでは、事業所で感染症が発生した際の職員の利用者支援や施設整備などのバックアップ体制について明文化されています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-9	【宿泊型自立訓練】利用者が自立した生活を地域で送ることができるよう、居室その他の設備を利用させるとともに、日常生活能力の向上に向けた支援を行っている
タイトル②	様々な勉強をする機会があり個別支援計画で目標を定め、「自立」に向けて取り組みます	
内容②	起床時間、食事時間、入浴時間、消灯時間、門限など、時間を意識しながら生活していくことは、仕事をしていく上でも重要なため、当寮ではスケジュールを決めて、利用者は生活リズム表を作成して、生活習慣として身につけていくことで「生活の自立」を目指しています。訓練施設という位置づけでの当寮での生活は、身辺の日は職員と一緒に居室の掃除を、教養プログラムで社会生活に必要な知識を学び、性教育は男女別で行い、金銭の日でお金に関する事など、様々な勉強をする機会があり、個別支援計画で目標を定め、「自立」に向けて取り組みます。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-3-4	利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル③	個別ケース記録は、個人の出来事、その時の対応、本人の様子が細かく記載されています	
内容③	利用者の個別ケース記録には、個人の出来事、その時の対応、本人の様子が細かく記載されています。職員間での確認は、勤務交代の申し込りの際や、日次ミーティングという日勤・夜勤の職員の間、併設するグループホーム職員も参加する機会もあり、利用者の様子を関係者で情報共有がなされています。その他、月2回の指導会にて個別の支援状況や支援の方向性を確認し合い、職員全体で利用者の現状や支援状況を共有した中で日々の支援が行われています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	目的を持って入寮してきた「自己選択」を利用者が意識し、精神的自立を確立できるよう支援しています
	内容	利用者は自己選択の中でこれからの「自立」に向けて入寮を決めています。概ね3年後の卒寮を目指し、自分の課題は何かを「個別チェック表」で確認し、「4つの自立(精神・生活・社会・経済)」に向けて個別支援計画の中で優先順位を決めて取り組みます。すべて、「自分で決めていくこと」を大切に支援しており、利用者が自分を振り返り、向き合うことを重ねていく中で職員は利用者の成長を確認しています。就労しながら基本的な生活習慣を習得し、目的を持って入寮してきた「自己選択」を利用者が意識し、精神的自立を確立できるよう支援しています。
2	タイトル	新人職員と育成担当がOJT業務日誌を用いて、二人三脚で独り立ちに向けた育成に取り組んでいます
	内容	新人育成についてはOJT業務日誌を用いて、リーダー層を育成担当に位置付けて取り組んでいます。時系列にその日の業務内容を記載し、「遅刻をしなかった」「元気な挨拶が出来た」など組織人として必要な規律性や責任性について自己点検を行います。業務中感じた疑問点はその日の内に確認、解決できるようにしたり、頑張った自分をアピールする欄を設け、二人三脚で独り立ちに向けて職員の自覚や自信を養えるよう働きかけています。寮長代行と育成担当者が会議体を持ち、新人育成で悩んでいる点などを共有し、助言を受けられるようにしています。
3	タイトル	3事業の強みを生かした支援の面展開や感染症、災害発生時に相互にバックアップ体制が取れる事業継続計画やマニュアルを作成しています
	内容	通勤寮拠点には併設している就労継続支援B型craftと連携型グループホームを含む奏かつしかが含まれ、3事業の管理者会議を定期的に行っています。各事業を取り巻く情報収集を行ったり、通勤寮で一般就労が出来なかった利用者がグループホームに入所し、craftで就労するといった3事業の強みを生かした支援の面展開を可能としています。また3事業合同の防災委員会を立ち上げ、1年間をかけて感染症や自然災害が発生した際に3事業が相互にバックアップできる体制が取れる内容の事業継続計画やマニュアルを作成し、万が一に備えています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	関係規定は、利用者支援と事業管理に分けて管理していますが、職員がより活用しやすいような整理方法の工夫が期待されます
	内容	事業所では、サービスの基本事項等やガイドライン等の規定類をまとめてファイリングし、職員へ周知しています。関係規定の一式では、運営規定や重要事項説明書、プログラムマニュアルなどの「利用者支援」と、支援員の心得や感染症支援対策、個人情報規定などの「事業管理」に分かれています。規定類の種類も多くあるため、普段活用する資料や新しく改訂した資料を分けて管理するなどの整理を行い、職員がより活用しやすいような工夫が期待されます。
2	タイトル	考課制度に則った人材育成を事業計画に位置付けているからこそ、次世代の人材育成に向けた育成制度のなお一層の運用と浸透が期待されます
	内容	今年度から寮長代行を配置し、世代交代を見据えた体制を構築しました。職能資格等級要綱に基づいた人事考課制度と職員個人別育成計画実施記録を用いた目標管理があります。人事考課は情意・成績・能力の項目で評価を行い、目標管理では研修も含め、職員が目標を設定しますが、組織からの期待値が記載されていません。事業計画にも人事考課制度に則った人材育成強化を位置付けているからこそ、次世代の人材育成に向けて、目標管理に経営層からの期待値を併記したり、情意考課に関わる重複項目の整理など育成制度のなお一層の運用と浸透が期待されます。
3	タイトル	この状況を脱した時にスムーズな復活につながるよう、継続して地域との関わりを深めていくべく取り組みを継続していくことが期待されます
	内容	卒寮後の地域生活を見据えた中で、地域との関わりはこれまでも積極的に交流機会を持ち取り組んできました。昨年度・今年度とコロナ禍のため、地域交流の機会は残念ながら中止せざるを得ない状況が続いています。その中でもできることに取り組み、集団ではなく地域の中に参加していく機会を作っています。地域には利用者の移行先となるグループホームも稼働し始め、当地域でも当寮の支援は広がりはじめています。この状況を脱した時にスムーズな復活につながるよう、継続して地域との関わりを深めていくべく取り組みを継続していくことが期待されます。